三四四二番

東道の　手児の呼坂　越えがねて　山にか寝む
も　宿りはなしに

三四四三番

うらもなく　我が行く道に　青柳の　萌りて立て
れば　物思ひ出つも

三四四四番

伎波都久の　岡のくくみら　我摘めど　籠にも満
たなふ　背など摘まさね

三四四五番

水門の　葦が中なる　玉小菅　刈り来我が背子
床の隔しに